



後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7892

後 記

1992年は情緒障害教育をめぐる、通級制特殊学級の設置の答申が出され、情緒障害児、言語障害児の通級による指導の道が開かれたこと、学習障害児への対応も取り組むべき課題として正式に取り上げられたことなど、大きな意味をもつ年でした。明治時代以来の学校教育制度の根幹を揺さぶるかたちの登校拒否問題は、ますます大きなものとなっています。

目を転じますとアメリカの公法94-142は、すべての障害児に個人別の教育プログラムを含めた教育の権利を保証し、個別教育プログラム（I E P）の作成・実践・評価が義務づけられ、その影響は日本にも及んでI E Pが盛んに論じられていることも注目されます。

さて、1992年度は私たちにとりましても記念すべき年でした。念願の特殊教育特別専攻科（情緒障害教育専攻）が設置され、4月より15名の学生を迎えることができました。1年コースに10名、うち北海道教育委員会長期派遣の現職教員は4名、2年コースには旭川市内および近隣の学校からの5名の現職教員という構成です。週3～4日の夜間授業開設は、講師の先生方にも特殊教育特別専攻科生にも、大きな負担であったかと思います。2年コースの方々は、昼間の教員としての職務遂行後、夕方5時半からの授業に駆けつけ、学業に取り組んでいます。

本紀要には、南幌養護学校長 工藤孝次先生から、北海道における精神遅滞児教育の歴史的証言ともいべき論文をいただきました。札幌医療科学専門学校の小笠原詠子先生には、自閉症児への詳細な観察法と指導法に関する論文を、また、神奈川県小児療育相談センターの志賀利一先生には、障害児の問題行動への対処法について、直接実践に役立つマニュアルをいただき、旭川市愛育センターみどり学園の瀬川真砂子先生にはT E A C C Hプログラムの障害幼児通園施設での実践を報告していただきました。貴重な論文をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

また、上記投稿論文のほかに、修業論文を提出した1年コース10名の論文が載せられています。T E A C C Hプログラムによる実践研究、思春期の問題行動、成人自閉症者の事例研究、自閉児・障害児の教育をめぐる、北海道における、帯広市における、小規模地域における歴史的地域的研究、障害児の音楽指導、登校拒否の社会的背景、ソクラテスの知と情に関する考察など、今年も幅広い研究がなされました。いずれの研究も地域の方々の協力無しにはまとめることはできませんでした。関係機関の方々に厚く御礼申し上げます。

私どもは、障害児教育の多様な問題に対応できるジェネラリストの養成にむけて、さらに努力して参りたいと存じます。

皆様の一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

1993年3月8日

小田切 正
末岡 一伯
伊藤 則博
古川 宇一